

男子審判長

氏名（ 前田 節夫 ）

1 採点上打ち合わせた事項

新体操競技は、採点競技であることの確認。採点に当たっての審判員としての自覚と誇りを持っての言動を行うこと。所属名や先入観を持っての採点ではなく、大会で実施された演技を評価すること。大会期間中、競技会場での監督・コーチ・選手の接触禁止。2019年改定採点規則の確認及びこの大会において、適用しないことの確認。

ビデオ研修での徒手や動きの質的な相違の確認。なお、大会に出場する選手の映像は、使用してはおりません。

2 採点上起こった事項とその処理

特になし。

3 その他特記事項・意見・感想等

(1) 個人競技や団体競技において、大きなミスが少なく、勢いのある演技に高得点が出やすい傾向であった感じられました。指導者の方々は、転回系を強くする事が上位になることでは無いことをご理解いただきたい。

(2) 個人競技において、入場に関する減点者が居る。演技に関する減点ではないので、普段の練習より注意すること。なお、コールされてからの返事についての減点は、ありませんが競技進行上、注意をお願いしたい。

(3) 所属名やマークの着用は、採点規則及び高体連適用ルールにも明記されているが、審判員からその確認ができない選手が居る。多くのスポーツのなかで、所属を明記することを嫌うのは新体操だけではないだろうか。ユニホームのデザイン性で採点される競技ではないはずですが。

(4) マナーやモラルについて、いろいろな状況の中でお願いをしてきたつもりですが、監督会議においても応援に関するマナーの注意もありましたが、残念でした。監督会議においての内容については、選手のみでなく応援される保護者や応援の皆様方にも周知徹底をお願いしたい。

(5) その他

選抜大会では、めずらしい大会運営であったと感じました。役員や補助員の方々の大会に対する思いが伝わるが大変丁寧で心のこもった大会開催をしていただけたこと、鳥取県体操協会及び鳥取県高体連の皆様方に感謝を申し上げます。

男子団体競技（構成主任）

男子個人競技（構成主任）

氏名（ 安福康夫 ）

1 採点上打ち合わせた事項

団体競技、個人競技ともに理想の新体操とは何かを話し合い、そこから目の前で見た演技に何が足りないかを判定して採点することを共通理解とした。

団体競技では、徒手体操や転回系の組み合わせにおいて、どれだけ団体的同時性が含まれているか、またそれがどの程度の難しいのか、どれだけの運動量があるのか、いかに美しさを生み出す元となっているのかを総合的に判断することについて話し合った。特に移動に含まれる運動の数や種類、隊形変

化と運動の関係、表現と運動の違いについて、日本トップレベルと高校レベルでは大きな差があることなどが話題にあがった。

個人競技では転回系だけでなく投げ受けや徒手をしながらの操作など、演技全体での手具操作の有無を見極めることについて話し合った。手具操作の難易度が低い割には構成得点が高く出過ぎている選手がいるなどの問題点についても映像を使って共通認識を持つよう話し合った。

2 採点上起こった事項とその処理

演技中に所属マークが識別できない選手がいたため、競技部長を通じて確認をすることがあった。減点には至らなかったが、規則上は明確に試合着の色と区別できることとなっているので、選手監督には気をつけていただきたい。

3 その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体競技

例年であれば6名に満たないチームが出場して来ることも多いこの大会であるが、ほとんどのチームが6名での出場となった。演技内容も例年よりも高かったと思われる。特に上位チームは今の時点でかなり完成されておりレベルの高い大会となった。

(2) 個人競技

ジュニア時代から活躍している選手が多く出場しており、演技内容その仕上がりともにハイレベルなものとなった。特に上位を競った選手たちは甲乙つけがたい能力を持っており、ミスの差が順位となって現れたように感じた。

演技の傾向としては手具操作を増やすために自然な操作を失っている選手が多かったように感じた。自然な操作は実施上の減点ではあるが、構成上でも詰め込みすぎた内容や選手の技術に合わない内容ということで減点することもあるので気をつけていただきたい。

(3) その他

役員や補助員の方々が大変丁寧で心のこもった運営をしていただけたこと誠に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

男子団体競技（実施主任）

男子個人競技（実施主任）

氏名（荒井 暁二）

1 採点上打ち合わせた事項

(1) 採点規則で変更になった点と高校適用ルールの確認

(2) 映像による採点

ア 上級者、中級者、初心者の採点と比較

イ ミスによる減点巾の確認

ウ Aの部分についての減点巾の確認

エ 特に徒手と動きの部分についての善し悪しについて、話し合いを多く持ち減点について統一性を持たせるようにした。

2 採点上起こった事項とその処理

団体競技において、タンブリング切り返しの演技で2回場外に出た。一連の動作とみて0.1の減点とした。

個人競技においては、特になし。

3 その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体競技

ア 6名で演技実施が9割、4名実施が1チームだけでした。

イ 6名の内1・2の名初心者が演技し無理なタンブリングや演技がありミスが多く出る傾向が見られた。また、演技後半の体力不足が演技に影響していた。

(2) 個人競技

ア 上位数人を除いて、身体全体を使用した運動が出来ていない。また、緊張は出来ていても弛緩された筋肉の運動が出来ていない選手が多く見られた。

イ 演技中に無理な種具操作や手具が止まるという演技が多く見られた。また手具の投げ受け時の受けの処理が良くない選手が多く見られた。